



「村の子供」和高節二



「家路」平山郁夫

題材の目標 二つの作品の比較鑑賞やロールプレイなどを通して、美術作品に関心をもち、表現のよさやおもしろさを味わう。
友だちと感想を交流しながら、感じ方や見方を深め、美術作品に親しむ。

準備物 【教師】美術作品の複写、付箋（裏に粘着性のあるもの）、ワークシート、手紙、
ロールプレイで使う小物（かご、さお、人形、学生帽など）

【児童】筆記用具など

学習の展開例（2 時間）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 事 項	評 価 規 準
<p>本時の学習課題をつかむ。</p> <p>二つの作品を一つずつ鑑賞し、見つけたことや感じたことを話し合う。</p> <p>二つの作品を比較鑑賞し、それぞれの作品のよさや面白さを話し合う。</p> <p>好きな作品の登場人物になり会話を想像し、ロールプレイ（劇遊び）をする。</p> <p>まとめ ・作者に宛てて手紙を書く。</p>	<p>「何が描かれているか」「どのように描かれているか」をよく見て心で感じ取ることの大切さを知らせる。</p> <p>見つけたことや感じたことを付箋に書き留め黒板に貼り、一人一人の感想を大切にすることを身につけさせる。</p> <p>児童の見方や感じ方に共感し、とを行きつ戻りつしながら話し合いを進め、「見る」ことの楽しさを味わわせる。</p> <p>二つの作品の共通点や相違点を見つけないながら、特徴やよさなどに気づかせる。</p> <p>グループに分かれ友だちと登場人物の会話や様子を話し合い、作品や作者の心情に親しむ。</p> <p>他のグループの発表を聞き、感じ方や見方を広げ鑑賞を楽しむ。</p> <p>手紙を書く場合は、実際に送付するようにする。</p>	<p>表現のよさやおもしろさなどを見つけ、感じたことを話し合おうとする。</p> <p>描かれていることに関心をもって見る。</p>

題材の意図と指導のポイント

< 児童の発達段階との関連 >

この時期の児童は、友人関係が広がり行動的になります。図画工作科においても活動的になるとともに、色々な表現方法にも関心を持ちます。しかし、美術作品を活用し独立的に扱った鑑賞活動はあまり経験がないと思われる。よって児童に親しみやすい作品として「家族（兄弟姉妹）」を主題にした作品を選びました。

< 鑑賞の視点 >

二つの作品の画面には 4 人の家族（兄弟姉妹）が描かれています。表情、持ち物、服装、ポーズ、あるいは色彩、タッチ、形などから

色々なことが感じとられます。また、その家族（兄弟姉妹）を描いた画家（父、兄）の温かい眼差しがモデルを通して感じられ、家族（兄弟姉妹）の絆や温かさなどが伝わってきます。

< 指導の工夫及び配慮 >

この題材は、一つずつ見ていた時には気づかなかったことが比較することで共通点や相違点に分かりやすくなります。

児童が自信をもって発言できるように、付箋に書かせたり、グループで話し合わせたりしましょう。

< 教具（教材）づくり >

の活動では、ふきだしを書かせるワークシートやロールプレイで使う小道具を準備しておきましょう。

わだか せつじ 和高 節二 「村の子供」《日本画、1935（昭和 10）年、177.0×184.6cm》

広島県高田郡向原町に生まれた和高節二（1898～1990 年）は、子どもの頃から図工が好きで、絵の勉強のため東京で過ごした時期もありますが、生涯のほとんどを故郷で過ごし、農村に生きる人々の生活や牛などの動物を好んで描きました。

この作品は、節二の子供がモデルとなり屏風に描かれています。服装や長靴、頬の赤らみなどから季節は冬でしょう。人形を抱いている妹や学生帽を真っすぐ被っている兄の姿からは人物の性格も想像できそうです。しっかりとこちらを見ている表情からは、モデルとしての緊張感が伺われ、作品全体からは父としての画家の温かい眼差しも感じられます。また、健康的な肌色、紺の細かい模様、効果的な赤の配色など作品の美しさにも引き付けられる作品です。

ひらやま いくお いえじ 平山 郁夫 「家路」 《日本画、1953（昭和 28）年、146.0×206.0cm》

1930（昭和 5）年、平山郁夫は瀬戸内海に浮かぶ生口島（広島県豊田郡瀬戸田町）に生まれ、豊かな自然に包まれて育ち、大伯父である清水南山（金工家）の勧めで東京美術学校へ進学しました。「仏教伝来」「シルクロード」などをテーマにした作品を数多く発表していますが、この「家路」は、大学を卒業した頃「ふるさとに生きる人々」をテーマに描いた作品です。エジプトの壁画を思わせるモデルは作者の妹たちや弟です。手足を太く描きデフォルメされた人物は、力強さや生命感があふれ、今にも元気な声が聞こえてきそうです。また、腕や足の動きに対して横向きの静かな表情は、時の流れが一瞬止まったような感じを与えます。画面全体を覆っている緑色は、瀬戸田の自然の豊かさや穏やかさ、ゆるやかに過ぎていく時の流れなどを感じさせます。